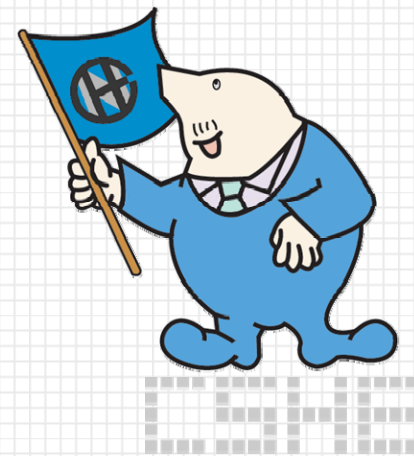


平成21年度学術情報リテラシー教育担当者研修

# 大学生を教えるノウハウ

名古屋大学高等教育研究センター  
中井俊樹



# 名古屋大学高等教育研究センター

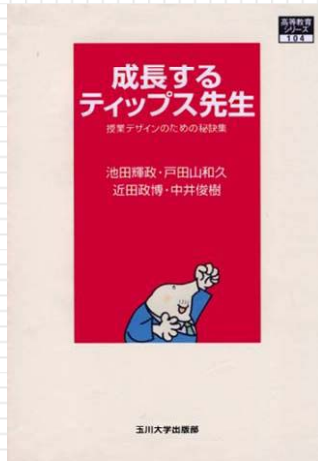


- 1998年に創設した高等教育研究センターに求められたこと
  - 名古屋大学の教育活動の改善に資する研究
- 学内の教育改善にどのように関わるのか？
  - 名古屋大学の報告書の知見や高等教育研究の知見が現場にあまり還元されていないのでは
  - 現場の教員に役に立つ形で提供する
- 現場志向の研究開発
  - 研究開発物を通じた授業改善支援
  - ファカルティ・ディベロップメント



# 開発物の例

CAE



CAE

# このセッションの目的

CSE

- 学術情報リテラシー教育担当者として必要な教育に関する基礎的な知識とスキルを身につける
  - どのような時に人はより学ぶのかを理解する
  - 学びを促す教え方とその具体的な手法を身につける
  - 参加者の教育観を共有し、それぞれの教育観を発展させる



CSE

# 教師の教師たる技術

CASE

これから教師になる若い人が、「自分には何もできないけれど、教育への愛がある、真心がある、これでやっていくんだ」とよくいいます。そこらへんは不安です。

熱心と愛情、それだけでやれることは、教育の世界にはない。

子どもがかわいいとか、よく育ててほしいとか、そんなことは大人がみんな思っていることで、教師だけのことではありません。そんなものを教師の最大の武器のように思って教師になったとしたら、とてもやっていけないと思います。

教師としては、人を育てる能力、教師の教師たる技術を持っていなければ困ります。たとえば、話ひとつとっても、魅力的に話せる、騒いでいた子どもが耳を傾けるような話ができなくてはならないのです。

出所：大村はま(2004)『灯し続けることば』小学館p.22-23



CASE

# 課題1: 紙工作

CSE

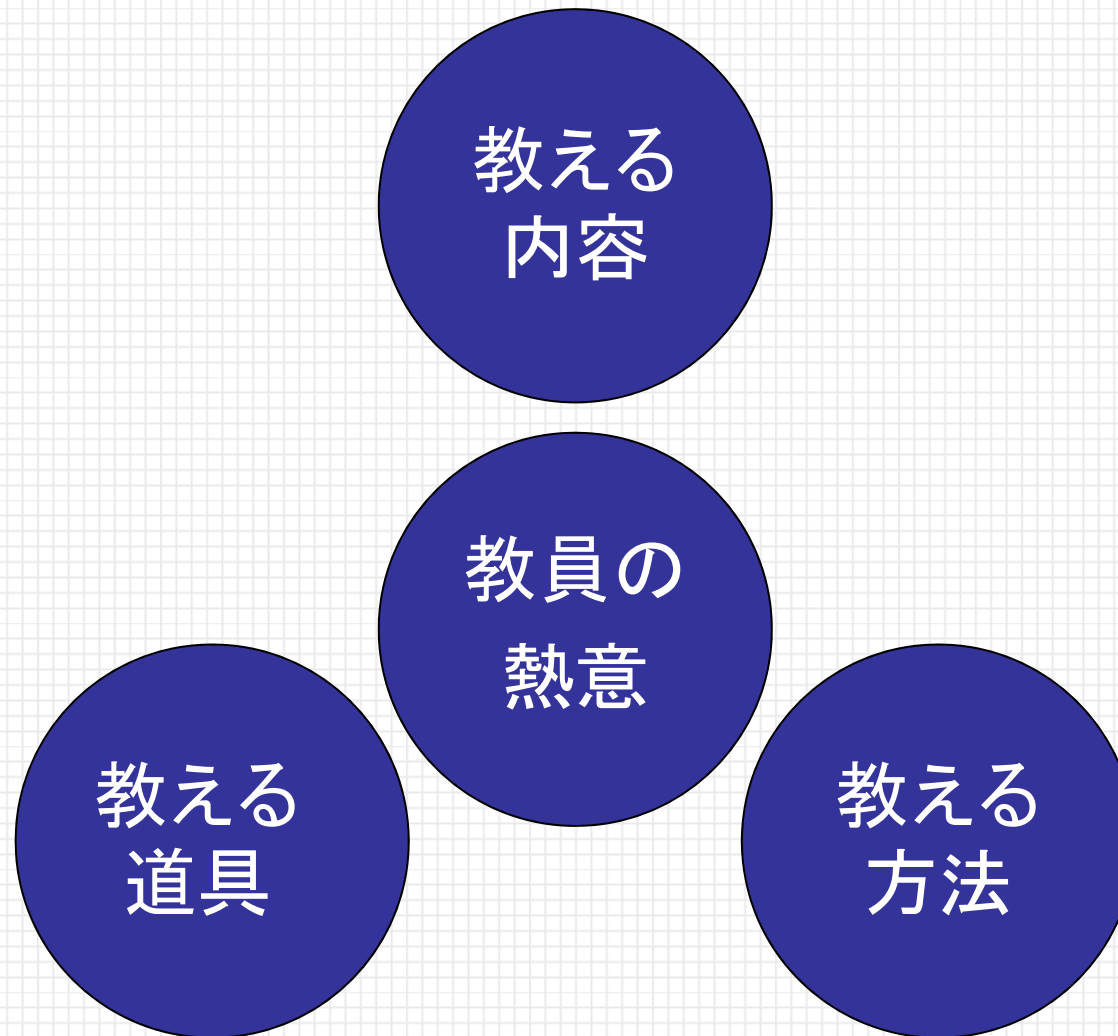
- 配布された黄色の紙を使って、指示にしたがって工作をしてください。ただし、質問はしないでください。



CSE

# 優れた授業の構成要素

CSE



飯吉(2006)  
をもとに修正



CSE

# 〇〇の時に、学習者はよく学ぶ

CASE

- 〇〇の例
  - 学習時間が増えるとき
  - 主体的な学習が増えるとき
  - 学習活動がマンネリでないとき
  - 学習者間で相互に学ぶとき
  - 合格するまでテストを何度も受け続けるとき
  - コメントがすぐに返ってくるとき
- 素朴な経験則・仮説は、あなた自身の教育の哲学の基礎になるもので非常に重要なものですが、残念ながら多くの方は自分が教える時に忘れがちに



CASE



# 学習成果に影響を与える要素

CSE

- 教授法と学生の成果との相関分析研究 (Feldman, 1997)
  - 30以上の従来の実証研究をレビュー
  - 教授法28項目と学生の成果との相関係数の平均を算出
  - それぞれの教授法が学習成果に与える影響の大きさを相関係数で示す



CSE

# 教授法と学生の成果との相関1

CEFE

- 教員の準備、コースの設計  $r = .57$
- 説明の明確さと理解しやすさ .56
- 授業目標にそった授業 .49
- 授業で期待される学習成果の理解 .46
- 教員による知的刺激 .38
- 学生への高い水準への動機づけ .38
- 質問の促進と他の意見への寛大さ .36

CEFE

Feldman(1997)



## 教授法と学生の成果との相関2

CAE

- 教員の会いやすさと親切さ .36
- 教員の話し方のスキル .35
- 授業目標と履修要件の明確さ .35
- 教員の科目内容の理解度 .34
- クラスの水準や進捗への理解 .30
- 教員の熱意 .27
- 評価における教員の公正さ .26

CAE

Feldman(1997)



## 課題2: 授業の組み立て方

CASE

- グループで、以下の1回の授業の計画案を作成してください
  - 対象: 小学4年生
  - 内容: 生徒全員が長方形の面積の求め方を理解し、計算できるようになる
    - 参考: 正方形の面積は前回の授業で学んでいる
  - 授業時間: 45分
  - 書き方: 導入、展開、まとめの3部で構成する



CASE

# 授業づくりの基本

CSE

- 「導入」「展開」「まとめ」
  - 学校の授業づくりの基本
  - 教員をめざす学生は、この枠組みで指導案をつくり教育実習へ
  - 区切ることにより、それぞれの学習の段階を整理し、教員にも学生にも、その時点の学びの意味を明確に



CSE

# 『ティップス先生からの7つの提案』

CAE

- 名古屋大学に埋もれていた優れた教育実践を教員・学生・大学の視点からまとめ、大学の中で広く共有させる冊子



CAE

# 名古屋大学の授業のノウハウの例

CASE

- 「授業終了後さりげなく教室に残ったら、学生が質問しにきた」
- 「少人数の授業では写真つきの名簿をつくったら、授業の雰囲気はよくなった」
- 「発音がきちんとできるまで教室から帰らせず、何度でもやらせるようにしている」
- 「大学院の授業を一度見学させたら、学生はずいぶんやる気になったようだ」
- 「授業を録音してファイルをホームページに公開しておく、学生はよく聞いているようだ」

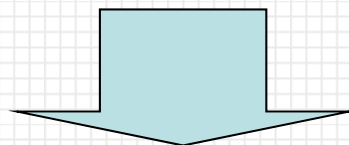


CASE

# 課題は何か

CSE

- 授業の質向上に向けてさまざまな取り組みを行っている教員は多い
- 新任教員、若手教員など授業のノウハウをあまり持っていない教員もいる
- 授業のノウハウの中には学問分野や授業形態を越えて利用できるものも多い



- 優れた授業のノウハウをどのように広く共有できるのか



CSE



# 7つの提案

CSE

1. 学生と教員が接する機会を増やす
2. 学生間で協力して学習させる
3. 学生を主体的に学習させる
4. 学習の進み具合をふりかえらせる
5. 学習に要する時間を大切にする
6. 学生に高い期待を寄せる
7. 学生の多様性を尊重する



CSE

# 道具をうまく使おう

C&E

- 教室で使えそうな道具
  - 黒板、チンベル、OHP、ビデオ、パワーポイント…
- 学生の持っている道具
  - メール、携帯電話…
- たとえば
  - レポートのコメントがすぐに返ってくると教育効果は上がりそう。じゃあ、レポートのコメントを早く返すためにメールで提出させ、コメントするか
  - どうも近ごろ流行っているeラーニングのシステムは、「できるまで次には進めさせない」学習が得意らしい。自分の担当する科目は、完全に習得しないと次でつまづくから使ってみるか



C&E

# IT活用授業編

CSE



- 授業を効果的にする手段としてインターネットやメールなどのITを利用する教員が増加
- インターネットをうまく活用することができれば、授業を大きく改善できるが、そのうまい活用法のノウハウは共有されていない
- 情報メディア教育センターと協力して開発



CSE

## 課題3: 学生の態度を育成する



- 「図書館の本に書き込みをしてはいけない」ということをどのように伝えますか？
- グループで、なぜ書き込みしてはいけないかの理由をまとめてください



# 教師が陥りやすい罠

CSSE

- 無境界性
  - どこまでやってもそれで終わりということはない
- 個と集団のジレンマ
  - 一人を待つことが全体を止めることに
  - 一部に力を注ぐと、ひいきとを感じる者も
- 上下関係
  - 評価する立場と評価される立場
  - 弱い部分、醜い部分を語りにくい
- 自分で何とかしたいという使命感
  - 一人で頑張りすぎると、問題の解決を遅らせることも
  - 相互不干渉主義、見て見ぬふり
  - 教育は共同的営み



CSSE

## まとめ

CSE

- 教え方に関する自分の経験則や仮説を見つめ直し、教える時に活用しよう
- 学生の学習に影響を与える要素に敏感になろう
- 「導入」「展開」「まとめ」という形式で一回一回の授業を構成してみよう
- 学生の参加度を高める教授法を導入しよう
- すでに蓄積されたノウハウ、今日のグループワークで出されたノウハウを利用してみよう
- 教育改善に向けて同僚性を高めよう



CSE

# 主な参考文献

- 飯吉透(2006)「Scholarship of Teaching and Learningが変革する高等教育改善の試み:制度・文化・テクノロジーの観点から」夏目達也編『学生・教師の満足度を高めるためのFD組織化の方法論に関する調査研究』平成16・17年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2)), 名古屋大学。
- 池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹(2001)『成長するティップス先生ー授業デザインのための秘訣集』玉川大学出版部。
- 大村はま(2004)『灯し続けることば』小学館。
- 鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル』北王子書房。
- 中井俊樹・山里敬也・中島英博・岡田啓(2003)『eラーニングハンドブックステップでつくるスマートな教材』マナハウス。
- 中井俊樹・齋藤芳子(2007)「大学教育の質を総合的に向上させる研修教材の評価」『メディア教育研究』第4巻第1号, pp.31-40。
- 名古屋大学高等教育研究センター(2005)『「ティップス先生からの7つの提案」の開発』特色GPシリーズ3号。
- ボイヤー, E. L. (有本章訳)(1996)『大学教授職の使命』玉川大学出版部。
- Feldman, K. (1997) "Identifying Exemplary Teachers and Teaching: Evidence from Student Ratings" in Perry, P. and Smart, J. (Eds.), *Effective Teaching in Higher Education: Research and Practice*, Agathon Press.

